審判員県外派遣報告書

1	講習会名 （大会名）	第1回全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップ （群馬県高崎市）		
2	報告者	藤田　公介	所属連盟	U18
3	期　　日	2019 年 2 月 8 日（金）～10 日（日）		
4	講　　師	久保裕紀　氏		
5	参加者	各県から派遣された審判員（原則 A 級以上）		

6	担当した Game				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ　ー　ム　雑　感
1	2/9	タツタ電線 vs 横河電機	U2	CC：田中充 U1：阿部暢史	高さとスピードが勝る横河電機が序盤から得点を重ね、そのまま勝利。
2	2/10	ST-IWATE vs 三井住友海上火災	U2	CC：井元誠 U1：武井晋平	堅い守りからの速攻で得点を重ね、三井住友海上が勝利。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等

●審判研修会の内容：講師　久保裕紀　氏●

①3vs2

3pts の attempt に対して、しっかりピーク・フラッシュを行う。
⇒ピークして確認したものを情報としてはっきりと示す習慣を日ごろから持っておくこと。
必ずしもパートナーが同じものを確認できているとは限らない。
選手のスタッツに関わることなので、″何となく2pts or 3pts″はダメである。明確な証拠を持っておくこと。

◎特に3vs2で気を付ける必要がある状況◎

①速攻からのクイックショット　②スクリーン（ハイピック）からのショット　③EOP でのクロックと3vs2
④シュートモーション(3pts area)→ポンプフェイク(3pts area)→ステップインしてショット(2pts area)というケースで、簡単に3pts にしてしまっている。
⇒最初のオフェンスの状態を確認して終わりではなく、最終まで確認する必要がある。

②スクリーン

3vs2のトラブルが起こる前には、スクリーンプレイが多い。
スクリーンには表と裏があり、各々のプライマリの理解が必要である。 1つのスクリーンプレイを1人で見ようとしない。
⇒スクリーンプレイの後、受け手はチェックインをし、送り手はチェックアウトをし、次のアクティブなマッチアップに対応。

◎スクリーンで気を付ける必要がある状況◎

①スクリーン、リスクリーン：この状況からクイックショットが起こった場合に3vs2の間違いが起こる可能性がある。

②オンボールスクリーン後に、スクリーナーがリングへダイブ：この場合、リングへダイブするスクリーナーとそのディフェンスの状況をセンターが判定しなければいけない。

③オンボールスクリーンからのサドンショット（プレイを握っているレフリーからは裏になるケース）
この場合、オンボールスクリーンの表を見ているレフリーと協力して、3vs2の判定をする必要がある。
裏になっているレフリーが全てを自分１人で見ようとするのではなく、「自分が見えていなければ相手が見えている」という信頼をもってクルーとして判定することが大切である。

FUL⇒Foot, Up, Landing の頭文字を取ったもので、ショットが行われる際の確認すべき優先順位である。
まずは足元を見て、3vs2の確認。次に目線を上に持っていき、ショットファウルの確認。最後にシューターの着地際を確認する。

③Strong side pocket

ボールサイド側のハイポスト（エルボー付近）のことで、3PO において、ウイークになる場所である。
特にここで起こるジャンプシュートへの対応が難しくなる場合が多い。
センターがレベルとアングルをアジャストして判定をする。セカンダリはリードである。

④コミュニケーション

コミュニケーションを取る時は「**必ず言葉**」にすること。同じプレイを判定していても、中身が異なることもある。例えば UF のクライテリアの勘違いなどがそうである。

◎2 種類のコミュニケーション◎

①アシスト：自分の持っている情報を提供する。
②セカンドオピニオン：パートナーから確認や意見が欲しいときに自らコミュニケーションを求める。

◎コミュニケーションの大事なポイント◎

「見たもの」「判断したもの」を「正直」に「嘘や言い訳」はしないということ。
⇒あいまい、うやむやにしない。当たり前のことを当たり前にすることでトラブルを未然に防ぐ。
⇒場面によっては、コーチや選手の主張も受け入れる必要がある。

見た（判定した）情報ははっきりと示す。パートナーは必ずしも、自分が持っている情報を共有しているとは限らない。だからこそ、言葉にして伝える必要がある。

●まとめ●

前日の研修会（座学・実技）、オンザコートでの実践・振り返り、他のレフリーの見学の全てが勉強になりました。学んだことは他にもたくさんあります。今回の学びを自分自身の成長だけにとどめることなく、香川県へも還元していきたいと思います。
次年度よりライセンスが変わるということに自覚と責任を持ち、次のステップへ今回の経験を活かして挑戦していきます。実技講習の時に久保氏が仰っていた「何事にも、些細な事にも”こだわり”をもって行うこと。」という言葉を胸に、精進していきたいと思います。
最後になりましたが、今回派遣して頂きました審判グループの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。